

今月のトピックス

- 手足口病が横浜市内で大流行しています。
- ヘルパンギーナが港北区、緑区、青葉区、都筑区、瀬谷区で警報レベルです。
- 流行性耳下腺炎が緑区、泉区で注意報レベルです。
- 咽頭結膜熱が磯子区、緑区で、伝染性紅斑が栄区で警報レベルとなっていますが、市全体の流行は下降傾向です。

全数把握の対象

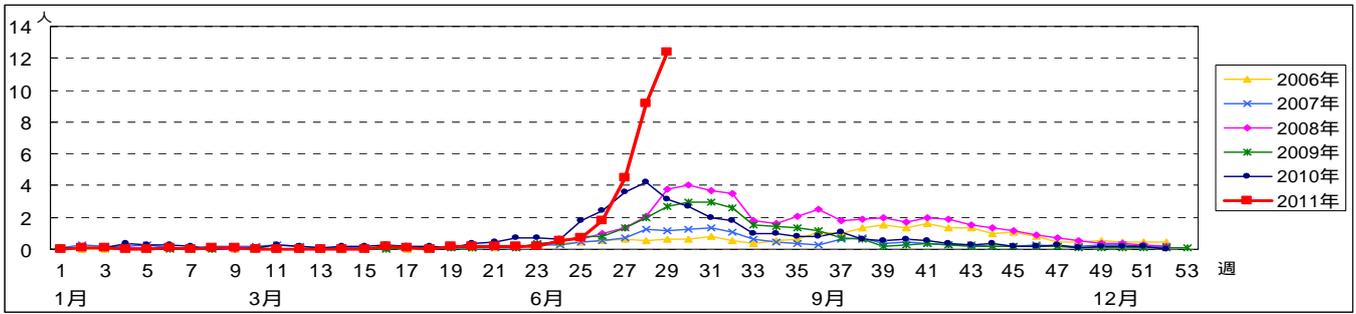
- 1 腸管出血性大腸菌感染症:6 件 (O157VT2 が 4 件、O26VT1VT2 が 1 件、O157VT 不明が 1 件) の報告がありました。家族内接触感染が 3 例、認められました (1 例は 6 月報告例の家族内二次感染)。特定の飲食店等での集団感染はありませんでした。6 月の報告数 12 件より減少しましたが、例年夏季に感染者数のピークを迎えるので 8 月も引き続き注意が必要です。8 月は [食品衛生月間](#) です。腸管出血性大腸菌感染症も含めた食中毒に注意しましょう。家庭でできる一般的な食中毒の予防法の 6 つのポイント (新鮮な食材の購入 冷蔵・冷凍での食材保存 手洗いの励行、清潔な調理 肉・魚の十分な加熱 食事前の手洗いと調理後はすぐに食べる 清潔な容器で保存し温め直すときは十分に加熱、長時間過ぎたものは捨てる) を心がけましょう。
- 2 レジオネラ症:肺炎型 1 件の報告がありました。感染経路は不明です。
- 3 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 7 件の報告がありました。4 件は日本国内での感染 (性的接触 2 件、経口感染 1 件、感染経路不明 1 件) が推定されています。1 件はインドネシアでの経口感染、他の 2 件は感染経路・感染地域ともに不明でした。
- 4 後天性免疫不全症候群:3 件の報告がありました。1 件は無症候期 (異性間性的接触:日本国内での感染)、もう 2 件は AIDS (どちらも異性間性的接触で、1 件は国内又はフィリピンでの感染、もう 1 件は国内での感染) でした。
- 5 風しん:2 件の報告がありました。どちらも予防接種歴なし。内 1 件は麻しん PCR 検査を実施したところ陰性であり、風しん IgM1.99 のため、風しんと診断されました。横浜市の 4~7 月の報告件数は計 12 件で、昨年の報告総数 3 件をすでに上回っています。東京都、川崎市等近隣地域での流行は見られません。風しんは、麻しんと非常によく似た症状を呈する場合があります。
- 6 麻しん:4 ヶ月児の 1 件の報告がありました。臨床診断例で、国内での感染が推定されています。ワクチン接種歴はありません。麻しん排除に向けて、積極的な疫学調査や検査が求められています。麻しんを疑った際には最寄の福祉保健センターにご相談ください。

※各感染症については、衛生研究所 H.P. をご参照ください。 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/>

定点把握の対象

- 1 咽頭結膜熱:第 29 週では、磯子区で定点当たり 5.75 と、警報レベルを上回り、9 週間警報レベルが持続しています。緑区で 3.00 と 5 週警報レベルが持続しています。市全体では 0.90 と、流行は下降気味です。
- 2 手足口病:6 月から西日本で流行していましたが、徐々に横浜市内でも流行が始まり、第 29 週では横浜市全体で定点あたり 12.38 と、1995 年以来 16 年ぶりの大流行となっています。14 区で警報レベルとなっており、特に緑区では 42.60 と多くなっています。第 29 週では、県域 (横浜、川崎、相模原市除く) 4.25、川崎市 15.34、東京都 9.53 となっています。

平成 23 年 週 - 月日対照表	
第 25 週	6 月 20~26 日
第 26 週	6 月 27~7 月 3 日
第 27 週	7 月 4~ 10 日
第 28 週	7 月 11~ 17 日
第 29 週	7 月 18~ 24 日



なお、手足口病の原因ウイルスは、CA16やEV71が一般的ですが、今年の流行ではCA6が数多く検出されており、横浜市でも病原体定点からCA6が検出されています。静岡県1)の報告によると、今年CA6が検出された手足口病では、発熱率が高く、四肢や臀部に紅暈を伴う水疱性病変が出現するが、手掌や足底にはむしろ少なく、上腕、大腿部および臀部に高頻度に認める。また、口囲や頸部周辺にも皮疹を認める、などといった特徴が報告されています。また、大阪府では家族内感染が疑われる成人の手足口病患者が報告されています2)。(詳しくは下記ホームページをご参照ください。)感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児への感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

1) IASR <速報> 2011年のコクサッキーウイルスA6型感染による手足口病の臨床的特徴—静岡県 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3784.html>

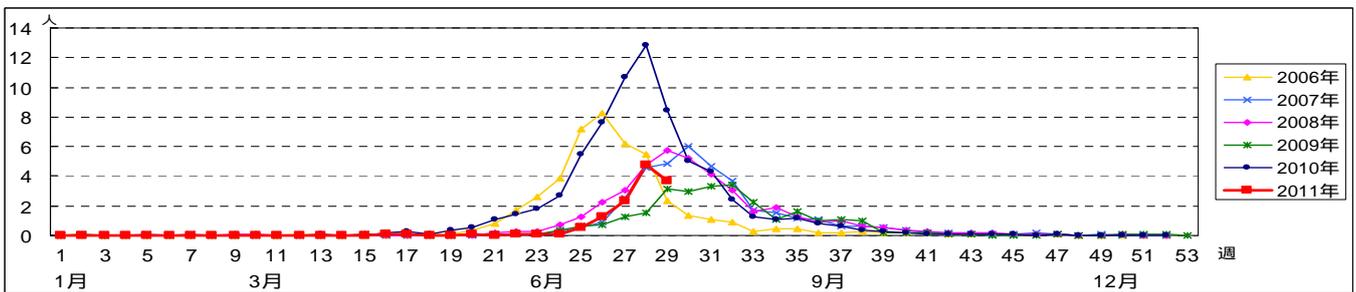
2) IASR <速報> コクサッキーウイルスA6型による手足口病の成人例 大阪府 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3786.html>

参考: 衛生研究所 H.P.手足口病について <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/handfoot2.html>

参考: 衛生研究所 H.P.手足口病 臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/hfmd/hfmd201128w.pdf>

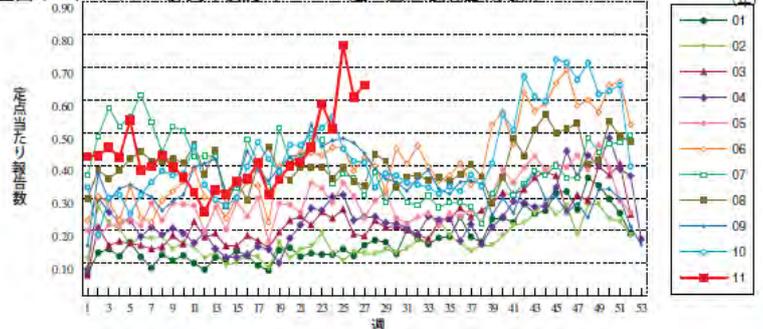
参考: 衛生研究所 H.P.手足口病 市民向けパンフレット <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/hfmd201107.pdf>

- 3 伝染性紅斑: 第29週では、栄区 1.25 で、10週警報レベルが持続していますが、横浜市全体は 0.30 で流行は終息に向かっています。
- 4 ヘルパンギーナ: 第29週では、港北区 5.38、緑区 6.20、青葉区 10.00、都筑区 7.33、瀬谷区 10.00 と5区で警報レベルとなっていますが、横浜市全体では、第28週 4.74→第29週 3.71 と、やや減少傾向を示しています。夏季に流行するため、引き続き注意が必要です。第29週では、県域(横浜、川崎、相模原市除く) 4.11、川崎市 5.84、東京都 6.85 となっています。



- 5 流行性耳下腺炎: 緑区 4.00、泉区 4.33 と注意報レベルになっています。横浜市全体でも第28週 0.52→第29週 1.16 とやや増加傾向にあり、今後の注意が必要です。
- 6 急性出血性結膜炎: 南区で 3.00 と警報レベルになっています。
- 7 性感染症: 6月では、性器クラミジア感染症は男性が35件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が13件です。尖圭コンジローマは男性11件、女性が7件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が2件でした。
- 8 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎が全国的に第24週あたりから増加傾向にあり、注意が必要です。横浜市でも第22週から28週まで週1~2件ずつ報告されています。6月は細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 9 基幹定点月報: 6月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症 11件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

全国のマイコプラズマ肺炎の状況 (IDWR 27週: 国立感染症研究所)



この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>